

はじめに

情報化社会を迎えたことにより、私たち人間のコミュニケーションの枠組みは大きく変化しています。一部の紙メディアと文字が独占的に情報のあり方を支配してきた時代から、さまざまな情報メディア、すなわちインターネット、テレビやケータイなどの情報もが大きな役割を果たす時代となっているのです。本書では、このような社会を「情報メディア社会」と呼んでいます。

「情報メディア社会」で生きる私たちにとって、これら情報メディアの特性を理解し、実践的に扱うためのリテラシー能力を身につけることは必須であるといえます。このリテラシー能力は、コンピュータの使い方を身につけるということとは異なった能力でもあるのです。

これらの能力を身につけるためには、抽象的な説明によるのではなく、日常の具体的な事柄やテーマを題材として情報メディアを理解することが有効です。しかし、残念ながら、そのような取り組みは、非常に立ち遅れているのが実情です。

本書は、「情報メディア社会」における教育、社会福祉、経営、医療、外国文化など、多岐にわたる領域を対象として、社会学やメディア文化論などを専門とする若手研究者たちがこの課題に取り組んだ試みです。それぞれの領域を専門とする方からは、もっと詳細な説明が必要であると感じられるところもあるでしょう。しかし、私たちは、今回、その詳細な説明を盛り込んでいくことよりも、「情報メディア社会」におけるそれぞれの領域へのアクセスのしやすさを優先しました。その試みがどこまで成功しているかは、読者の皆さんの判断に委ねたいと思いますが、本書が、「情報メディア社会」を生きるためのリテラシー能力を身につける一役となることを私たちは心から願っています。